

# タンチョウ博士のお話（第7回）

今回はタンチョウの足の長さや足が長い理由についての質問です。  
質問は、〔中小〕 たかはしりんさん、〔北小〕 石塚蓮斗さん、〔西小〕 中川真緒さん、〔長中〕 T. Aさん、〔長高〕 A. Kさんなど11名の方からいただきました。

## ○ツルの足は長すぎる？

「ツルの脛切るべからず」。国語辞典を見ると、こんな言葉が載っている。脛はひざから足首までのこと。ツルの足を切ってはダメ、という意味だが、これって、いったいどういうこと?????

今回は、ぼくの足はどうしてそんなに長いのか？という質問にお答えしよう。

たしかに、ぼくの足は長く細い！！（写真①） ぼく（オス）のかかとから足指の付け根まで（トリやイヌ・ウマなどの後ろ足は、みなここが長い）は約30cm、かかとからひざ（ひざはおなかあたりの羽毛に隠れて、外からは見えない）までの長さも同じくらいなので、ひざから足指の付け根までは、合わせて60cmほど。太さも1円玉の直径と同じくらい。

ぼくは川や沼などの水辺で、水中や水の底にいる餌も探して食べるから、足が短いと水の中へ入っていけない。

じっさいは、ひざからかかとの途中まで羽毛におおわれているから、そこが濡れるのは嫌なので、水の深さが40cmほどのところまでしか入らないことが多い。

では、足は長いほどよいのだろうか？

足は体を支える土台だから、じょうぶな骨でないと困る。だけど、足を長くするとどうしても重くなる。でも、ぼくは空を飛ぶため、できるだけ体は軽くしたい。つまり、飛ぶための体の軽さと、水の深いところで餌をなるべく広く集められる足の長さとのバランスが、うまく釣りあって、今のぼくの体ができているのさ。

もし、もっと水の深いところで餌を探そうと思ったら、体が水に浮くように工夫して、足はハクチョウやカモと同じ「短足」でもかまわない（写真①）。乾いた陸地で暮らすズメやハトの足は短いけれど、体の割に足の長いトリをいつか見かけたら、そのトリも、ぼくと同じように水辺で暮らす仲間だと思えばいいよ。

初めに書いた、「ツルの足は切ったらダメ」は、もちろんたとえ話。ツルの足を長いからといって切ることができないように、物にはそれぞれの性質があり、それを無理に変えることはできない、という、今から2,300年ほど前の中国の荘子という人の教えだ。対句として、カモの足は短い、継ぎ足して長くはできないとある。それにしても、ぼくの足が長くて目立つと感ずるヒトがいるのは、昔も今も変わらないようだ。

（文・写真：正富宏之）



写真① 「長足」のタンチョウと、「短足」のオオハクチョウ